



**Tackle Guide**  
 竿はライトアジ専用のほか、全長1.8メートル前後の7:3調子でオモリ40号が背負えるタイプのゲームロッドなどがおすすめ。初心者にはお手軽な貸し竿もあるから安心。



止まりそうな雰囲気になってきた。バリバリの入れ食い日でも潮止まり近くは食い渋るのはアジ釣りでは珍しくないこと。逆に潮が動き出せば好転することもよくある話だから、あきらめるにはまだ早い。船内でもコマセをまく手を止める方はなく、黙々とチャンス到来を待っている。昼近くになって、そろそろ潮が動き始めることと見たのか、船長は横浜方面へ大きく移動することにした。

**待ってました!**  
 移動中に昼食を取り、後半戦の入れバクを期待していると10分ほど走ったところでスピードがスローになり横浜沖の釣り場に到着。ライトアジの定番スポットである。しばし反応を探してから午後の部スタートだ。しかし、意に反して最初のポイントはスカ。次のポイントでも同様

▼大半の方が30尾前後をキャッチ



で3カ所目は2、3投で即移動とやや厳しい状況。こりゃ今日は本当にダメかなと不安もよぎる。しかしやっぱり東京湾のアジは救世主だった。4カ所目に狙ったポイントでは1投目から釣れてきて、にわか期待が高まる。今まで口を使わなかった状況から一転して食い始め、船内のだけかしらが取り込む姿が見て取れるようになってきた。右ミヨシのベテランさんは仕掛けを下ろすたびに、単発ながら抜き上げて数をのぼしている。時折小ぶりのサバも交じるがこれはご愛きようだ。これだよ、これ! アジ釣りは一日のうち、たいてい1回はハイライトが巡ってくる。この日は後半になってやってきた。バリバリと派手ではな

いがプチ入れ食いである。すでに画撮りは済んでいるので、ここは釣りの邪魔をしないようにしばし見学することにした。次つぎ掛かってくるアジを皆さん夢中で取り込んでいて、その姿から楽しさが十分に伝わってくる。とりわけ左舷の女性はムーチングタイプの竿を使っているから、ややサイズのいいアジが掛かると深く曲がり、そばで見ている私も楽しくなる。結局ここで沖揚がりの13時半になり納竿となったが、最後のポイントの追い込みが功を奏して18、30センチが13、41尾と上々の釣果であった。先のベテランさんは「ラスト30分ぐらいで19尾釣ったよ」とご満悦の様子。きつと夜は



極旨の金アジ三昧を堪能したことだろう。帰港後、高橋船長は、「どのポイントでも反応はビツリ出ています。状況が変わればバリバリ食ってきますよ」と笑顔で話していた。

**船宿information**  
 東京湾奥平和島  
**まる八**  
 ☎03-3762-6631 (詳細は巻末の情報欄参照)  
 ▶料金=ショートライトアジ乗合一人8700円 (付けエサ、コマセ、水付き) 女性・子供割引あり  
 ▶備考=予約乗合、7時10分出船。ほかア五一目へも



▲食べごろサイズの20~25センチ級はどう料理しても美味

**よもやの食い渋り!?**  
 当日は4人グループが2組いて計8名のお客さんが仲よく右と左に分かれて並び、ど

高橋広司船長が最初に向かったのは川崎沖周辺。航程30分ほどの近場からスタートとなった。てつきり最近1東超えの釣果も見られる木更津方面に行くのかと思ったが、取材ということもあってか当日は型狙いを優先してくれたようだ。「底から2メートル前後を狙ってください」とアナウンスがあり釣り開始。水深は20メートル前後。すぐに20センチ級が顔を見せて幸先がよい。ほとんど風がない曇天のアジ日和、これは期待できるかも! と思ったものの勢いがなく、ポツポツといった釣れ具合で今イチ盛り上がりがない。潮が澄んでいるし、このところ水温が下がったのが影響しているのかも? そんな状況の中、最初のポイントでは女性の方お二人が

大活躍で、男性陣を尻目に食いながらもコンスタントに取り込んでいる姿が目についた。型よいの釣れたときに写真を撮らせてもらい、まずは取材成立である。このポイントでは小一時間ほど粘ったが、どうもアジのご機嫌はよい感じではなく、船長のほうがシビレを切らしたよう移動を判断。しかし近くの定番スポットをラン&ガンで攻めるも、やはりどこも最初だけ姿を見せて後が続かない。簡単に言うといくつかのポイントを釣りに歩いたが、潮止まりの時間が近づくとアジの食いも

# 東京湾奥平和島発 川崎・横浜沖

## ライトアジは裏切らない

### どこのラストスポット

冬本番を迎え寒い日が続く中、依然として好調なのが東京湾のライトアジ。日並みによつてはトップシーズンを超える釣果もチラホラ聞こえてくるほどで、釣り物の少ない冬場の救世主として人気を集めている。これだけ釣れていればよほどのことがない限り空振りはないだろうと、1月中旬に出かけたのは平和島の「まる八」である。シロギスやアナゴ、カレイなど東京湾の小物釣りに精通する老舗の船宿で近年はライトアジに力を入れてい

休日などは老若男女のお客さんでにぎわいを見せているようだ。初めて訪れる船宿だったので、前日に駅までの送迎をお願いしたら、京急・平和島駅でもJR京浜東北線・大森駅でもどちらでもOKとのこと。2線を使えるから電車派には便利で安心と言えるだろう。また駐車場のすぐ前が乗船場になっていたのでマイカー派にとってもお手軽度は満点だ。午前7時過ぎに到着したが、すでに予約のお客さんは集まっているとのこと。おみさんと朝のあいさつを交わしてさっそく乗船。ほどなくして定刻の7時20分になり出船となった。

このポイントでは小一時間ほど粘ったが、どうもアジのご機嫌はよい感じではなく、船長のほうがシビレを切らしたよう移動を判断。しかし近くの定番スポットをラン&ガンで攻めるも、やはりどこも最初だけ姿を見せて後が続かない。簡単に言うといくつかのポイントを釣りに歩いたが、潮止まりの時間が近づくとアジの食いも

**知得! ライトアジのコツ**  
 Tips and Tricks  
 潮が澄む冬場はアジの警戒心も高まるから、仕掛けは細めのハリス1.5号が基準。付けエサは食い渋りならアオイソメ。入れ食いになったらエサ持ちのよいアカタンが有利だ。

▲付けエサはアオイソメとアカタンが配られる